

しが国際協力親善大使レポート

やまもと なおこ
山本 奈央子さん

隊次：2015年度2次隊

職種：家政生活改善

派遣国：ザンビア

プロフィール

大学在学中に国際関係学を学ぶ。国際開発協力論を専攻。卒業後、民間企業で数年働いた後に協力隊に参加。

国の紹介

アフリカ南部に位置するザンビア。サバンナ気候で、大きく分けて雨季と乾季の季節があります。公用語は英語ですが、70以上の部族で構成されているため、地域によって様々な現地語が話されています。国民の約8割がキリスト教徒であり、日曜になると教会に行ってお祈りをするというのがザンビア人の習慣です。ザンビア南部にあるリビングストーンには、世界三大瀑布の一つであるヴィクトリアの滝があり、雨季のシーズンになると外国人観光客で賑わいます。ザンビアの主食は、白トウモロコシの粉をお湯で練って作られた「シマ」と呼ばれるもので、チキンや菜っ葉を付け合わせて食べます。

活動内容

ザンビアに赴任してから3ヶ月が経ちました。私はカフエ郡という町の農業事務所に配属されており、食と栄養に関するセクターで活動しています。主な活動内容は、現地の女性を対象にクッキングデモンストレーションを行ったり、栄養価の高い食物栽培を推進する活動をしています。と言っても、今はまだ本格的な活動はしておらず、配属先の同僚たちに同行をして農家訪問をしたり、農業事務所に来訪する住民の方たちとお喋りをして、自分がこの場所で何が出来るのかを模索中です。私の職種は家政・生活改善という幅が広いテーマで、活動の要請も新規のため、活動が軌道に乗るまでは時間がかかるかもしれませんが、配属先の同僚と一緒に焦らず楽しく活動していきたいと思っています。

休日には、近くのマーケットへ買い物に出掛けたり、近所の主婦や子どもたちとお喋りをしています。ザンビア人は基本的にフレンドリーで大らかです。道を歩けば必ず挨拶をして「元気？」と聞いてきてくれます。現地語で返事をすると、みんな大喜びをしてハイタッチをしてきてくれます。私たち日本人の感覚からすれば、仕事面や時間面においては、大らかさがルーズに見えてしまうこともありますが、何かに追われるストレスがない社会に魅力を感じることもあります。

ザンビアにはあらゆる所にマンゴーの木が生っていて、子どもたちは木に登ってマンゴーを採ります。今の時期はマンゴーが食べ放題です。木から採ったマンゴーを、ザンビア人はナイフを使わずに歯で皮をちぎってワイルドに食べます。そして、マンゴーを食べ終わった後には、爪楊枝の代わりに木の枝を折って歯磨きをします。ザンビアでは生活のなかで「今あるモノを工夫して使う」場面が多く見られます。便利なモノがすぐに手に入る日本で暮らしてきた私にとって、彼らの生活の知恵は新鮮であり、学ぶことがたくさんあります。

まだ始まったばかりのザンビア生活。愛犬と琵琶湖がもうすでに恋しいですが、今このように活動させてもらえることに感謝しながら、日々が充実したものになるよう活動に励みたいと思います。



キノコ栽培研修の様子。ザンビアでは協力隊によるキノコ菌床栽培が
高く評価されており、先輩隊員からその栽培方法を学びました。



配属先の結婚パーティーに招かれた時の写真。
初めて会ったマダムに誘導されて皆の前でザンビアンダンスを披露しました。



ザンビアの主食、シマを作っている様子。電気供給が不安定なため、
炭をおこして屋外で調理するのが一般的です。

しが国際協力親善大使レポート

やまもと なおこ
山本 奈央子さん

隊次：2015年度2次隊

職種：家政生活改善

派遣国：ザンビア

自己紹介

大学在学中に国際関係学を学ぶ。民間企業で数年働いた後、青年海外協力隊に参加。2015年9月よりアフリカ南部に位置するザンビアへ赴任。

ザンビアの気候や文化の紹介

ザンビアはアフリカ大陸南部に位置しています。アフリカと言えば「1年中暑い」というイメージがありますが、ザンビアには大きく分けて「雨季」と「乾季」があり、乾季には日本の冬のような時期があります。寝る時は布団に毛布、外に出る時は厚手のコートが必須です。ザンビア人は私たち日本人と比べ寒さには弱いですが、乾季の暑い時期は本当に日差しが強く、暑さにぐったりしている私を見て、ザンビア人は「大丈夫？」といつも心配してくれます。国民のほとんどが農業従事者であるザンビアにとって、雨季はとても重要な時期であり、その年の雨量によって農作物の収穫量、(ザンビアは水力発電が主なので) 電力供給量が変わり、人々の生活が左右されます。近年は雨量が不安定ですが、今年はたくさん雨が降ってくれることをみんな願っています。

ザンビアでの活動や生活について

私は郡農業事務所に配属しており、食と栄養に関する部署で活動しています。具体的には、栄養価の高い農作物(例えば大豆や落花生)を使った料理教室、キノコや米など農家にとって新しいとされる作物の栽培ワークショップなどを行っています。首都や町の中心部にはショッピングモールやスーパーがあり、様々な食材を簡単に手に入れることができます。しかし一方で少し田舎の方に行けば、スーパーは一軒もありません。基本的にみんな自給自足の生活をしています。なので、自分達の畑で育てた農作物を用いて、いかに栄養バランスの取れた食事をするか、継続的に食べ物を確保していくか、またどのように農作物を売って収入を得るのかなどが重要になってきます。

その活動ですが、正直に言うと、思うようにいかない時の方が多いです。まず約束の時間に人が集まりません。片道2時間かけて行った先で、予定していたプログラムがドタキャンになることもしばしば。活動を始めた頃は、日本社会では考えられないこのような出来事に、腹が立ったり落ち込んだりしました。しかし、これは価値観や生活環境、文化の違いから来

ていることを知りました。例えば、田舎に住む農家さんの中には太陽の位置から時間を判断している人もいれば、10キロ以上かけて集合場所まで歩いて来なければいけない人もいます。ミニバスと言われる公共交通機関は発車時刻が決まっていないので、出発までに数時間待たないといけないこともあります。そういった背景を知ってからは、自分の考え方が少しずつ変わっていきました。ザンビアに赴任して1年以上が経った今、ザンビア人の言動にはまだまだ一喜一憂していますが、「相手をよく理解する」ことを心掛けながら楽しく活動しています。

ここで、独断と偏見ながら私の「ザンビアの好きな面トップ3」を紹介させていただきます。
第3位：子どもが人懐っこいところ！道を歩いていると何人もの子どもたちが「ムリブワンジ（How are you）？」と挨拶をしてくれます。手を繋いでくる子もいます。私が現地語で返事をすると、とても嬉しそうに、ケラケラ笑ってくれます。それを見るところらも自然に笑顔になります。第2位：ご飯が美味しいところ！特にお肉は安く美味しいものが食べられます。主食であるシマ（トウモロコシの粉に水を加えて沸騰させたもの）は赴任当初あまり好きでなかったのですが、今は定期的に食べないと物足りなくなりました。第1位：テンションが上がると皆すぐに歌って踊り出すところ！体が勝手に反応するみたいです。ザンビア人の楽しそうな姿を見ているとこちらまで楽しい気分になってきます。

最後に、協力隊としてザンビアで現地の方々と活動できる時間は限られています。今このようにザンビアで活動が出来るのも、日本で応援してくれている家族や友人、また国民の皆さまの支援があるからこそです。感謝の気持ちを忘れず、楽しく、精一杯残りの任期を過ごしたいと思います。



活動（クッキングデモンストレーション）の様子。
落花生から保存食であるピーナッツバターを女性たちと作っています。



ある日活動が終わった後、農家さんたちとシマを食べている様子。
スプーンなどは使わず、みんな手で直接頂きます。



Women' s Day という祭日に、町の女性が集まるイベントで同僚たちと撮った1枚。
職場や所属団体単位でお揃いのチテンゲ（ザンビアの伝統的な布地）を購入し、それで仕立てた洋服を着るのが一般的です。ザンビア人女性はオシャレ大好き。